

ご存じの方も多いでしょうが、「小学生がたった1日で19×19までかんぺきに暗算できる本」が、2023年の発行部数50万部以上、なんと昨年の年間ベストセラー第1位（日販調べ）。言い方を変えれば昨年、国内でもっとも多くの人に読まれた本ということになる訳です。



昨年はチャットGPTなどの生成AIが話題となりました。本当なら手間と時間をかけてリサーチする情報が瞬時に手に入るし、四則計算をはじめ複雑な計算もAIを利用すれば誰でも正解できる時代の到来です。こんなに便利な現代社会において自らのアタマと時間を使って面倒な計算の答えを導き出す「暗算」というアナログ的な試みが多くの人に支持されていることは、時代の流れに逆行しているような印象を受けるし、すこし意外な感じがしますね。

発売前はタイトルにもある通り小学生をメインターゲットとして予想していたところ、発売後の反響をみると小学生の子どもがいる30代・40代の層が購入したのとほぼ同じ割合で60代・70代のシニア層にヒット！シニア層は老化防止など自らの脳トレ目的のため、または孫とのコミュニケーションを図るために買っているようです。これまでに暗算にはあまり縁のない層の人たちが本書に刺激され関心を持つに至った理由はいったい何か？もしかすると計算に対する苦手意識と同時にカンタンに計算できるスキルを身に着けたい潜在的なニーズがあるのかもしれませんが。

この本で紹介している暗算のやり方

14×15
の場合

*十の位が一どうしの二ケタのかけ算がスグに出来る

「おみやげ算」は面積で考えると分かりやすいかも。左図の(C)が右側の(B)の下に移動するのと同じ手順。

*この本では通称「おみやげ算」という方法を使っている

*慣れてくると5秒内にできるようになる

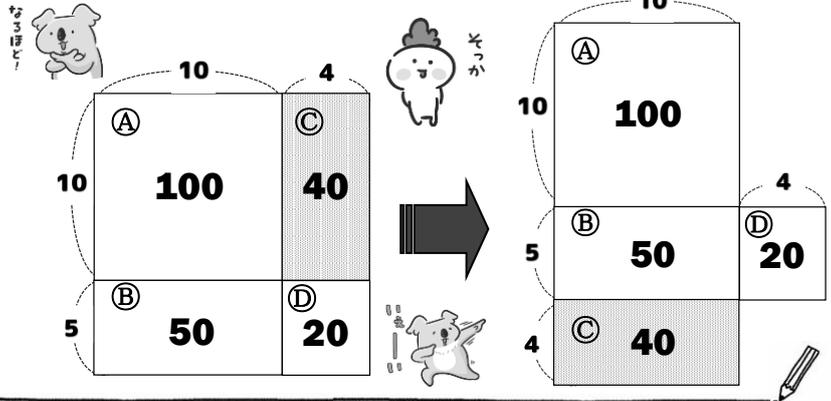
おみやげの5をわらす

$$14 \times 15 = (14+5) \times 10 + 4 \times 5$$

$$= 190 + 20$$

$$= 210 \quad 14 \times 15 \text{ の答え}$$

14と15の一の位をかける



そしてもっとも強調したいのはココからです。

たしかにこの「おみやげ算」は誰でもスグに理解できるので、小さい子どもから高齢の方まで幅広い層の人が習得できる計算方法であり、アタマの柔軟体操には効率的なトレーニング法だとも言えますが、珠算式暗算がある程度できる人からすると、かえって遠回りの作業に感じてしまうかもしれません。たしかにユニークな発想ですし便利な計算法ではありますが、この方法のウイークポイントは十の位が同じ数どうしの掛け算のみでしか使えない点にあり、応用できる範囲が限定的であると言えます。

一方、ソロバン学習者の視点からみると、2ケタ同士の掛け算は全珠連暗算検定でいえば3級レベル（アバカスサーキットではF2クラス）であり、教室でも多くの生徒が当たり前のように暗算できます。モチロン十の位が異なる二けたの掛け算でも苦勞することなく正解が瞬時にアタマに浮かんできます。さらに言えば、暗算検定1級になると3ケタ×2ケタが出てくるし、段位暗算に入ると3ケタ同士や3ケタ×4ケタ、そのうえ整数のみならず小数のかけ算・わり算にもチャレンジしていきます。

だからと言って「おみやげ算」を否定的に捉えている訳ではありません。この方法でたくさんの方が暗算に慣れ親しむことは間違いなく良いことです。そして何よりもソロバンを習っている皆さんは、「おみやげ算」よりも難しいレベルに日々取り組んでいるんだ！という自覚と自信をもってくださいね～！



春休み

3月27日(水) ~ 3月31日(日)

上記の期間は「春休み」となります。 休み明けの最初の授業は

◆高見教室・・・4月1日(月) ◆塔ノ木教室・・・4月2日(火)

となります。宜しくお願ひします。